

(様式第1号)

研究No. (記載不要)	15 - 学 - 14
-----------------	-------------

平成15年度配分 研究成果の概要

研究名	Xタイプ・ポート研究拠点化のための活動研究			
配分を受けた 特別研究費	学長 特別研究費 1540 千円			
研究者氏名 (代表者)	学部・学科名 デザイン学部 技術造形学科	職 助教授	氏名 長嶋 洋一	(共同研究の分担内容) 全体統括(リーダー) IT, NIME, MAF 全幹担当, 音楽
共同研究者	文化政策学部 芸術文化学科	教授	伊藤 裕夫	パフォーマンス, マネジメント
	"	教授	大山 千賀子	写真, 映像
	デザイン学部 技術造形学科	助教授	古田 祐司	映像, P-X-ション
	"	講師	佐藤 聖徳	インストール, 造形
発表の方法 (予定で可)	① 紀要		号数	第 5 号 (2005年 3月発行)
	② 学会等での発表 学会等名: 情報処理学会		発表日 (発表 予定日)	平成16年12月2日
	3 その他 発表の方法:		発表日 (発表 予定日)	平成 年 月 日

注:配分を受けた翌年度の6月末までに提出

(研究の目的等)

文化・芸術・デザインの交流領域である「メディア・アート」を軸にして、本学両学部および地域(地元企業・静岡大学)との共同研究・協同事業・情報発信の中核拠点(コアハブ)としての活動について研究する。本学の特長である文化政策や芸術文化マネジメント、デザインとアートとサイエンスの統合されたメディアアート、立地を生かした国内外の専門家との交流・作品展示/パフォーマンス発表の場としての「メディアアートフェスティバル」やシンポジウム等の検討や実現を通して、文化・芸術研究センターの研究テーマの一つとして、地域や世界に向けた新しい時代の現代文化のデザインについて研究する。

(研究の実施方法等)

メディアアートの創造・交流・発信というテーマが両学部の特長の連携により実現されるメリットを生かし、中期的な視野で学外の専門家(静岡大学やIAMAS、ヤマハなど地元企業)とも共同で、具体的に以下の内容を実施しながら研究を進める。[1] 研究拠点・情報発信拠点の意味で、年に一度程度の開催でシンボルとなる「メディアアートフェスティバル」を主催し、学内(教員・学生)の作品展示/公演発表だけでなく、内外から公募した作品展示/公演発表も含めた全国的/世界的な「場」として文化貢献する。[2] 研究/交流/発信のために、あわせてメディアアート及び関連領域のワークショップ・シンポジウム・カンファレンス等を企画・招致して、研究者・専門家のネットワークとして機能する。[3] 関連した産学交流/地域貢献の一つとして、共同研究・受託研究・地域事業などに本学の立地と施設を生かして積極的に提案・参加する。[4] 研究成果を本学の教育ならびにアカデミズムに還元するために、学生と教員のプロジェクトへの参加、卒業制作/イベントとの連携、大学院の教育と連携した特別講座やシンポジウムの開催、資料の収集蓄積とWeb公開などにより教育・地域文化にも貢献する。

(得られた成果等)

■メディアアートフェスティバル2003

研究拠点・情報発信拠点の意味で、年に一度程度の開催でシンボルとなる「メディアアートフェスティバル」を主催した。今回は2003年12月20-21日に、本学にて「情報処理学会音楽情報科学研究会・インターカレッジコンサート2003」を開催し、この期間を含む時期に「メディアアートフェスティバル2003」を開催した。内容としては、(1) 上記研究会とコンサート(2日で3回、国内約10大学の学生作品公演のみ)、(2) インターカレッジ映像上映会、(3) インスタレーションギャラリー(インカレ部門+SUAC学生部門+一般公募部門)、(4) SUAC CG/Photoギャラリー、(5) SUACの特別企画「冥想空間パフォーマンス」を行った。

■国際会議NIME04に関する準備とSUAC独自企画 2003年9月-2004年3月

世界最大のコンピュータ学会であるACMのワークショップとして2000年にスタートした、国際会議NIME(International Conference on New Interfaces for Musical Expression)が、本年2004年6月3-5日に本学を会場として開催された。世界中の専門家が集まるこの機会を絶好のチャンスととらえて、2004年のメディアアートフェスティバルはこのNIME04を含む期間に開催し、同時に、国内外から専門家が集まる機会とSUACの立地・環境を生かした、独自企画の実現に向けた準備を行った。本年度はその準備として、CFP(call for paper: 国際論文発表募集)チラシを作成して広報した。